

「ママパライン」は今年で 20 歳になりました!



(特活) 子ども NPO・子ども劇場全国センター
中村 雪江

ママパラインは、今年で創設から 20 年を迎えました。ママライン(※創設時の名称でその後ママパラインに)の創設は、東京都内で 2002 年 2 月 22 日(金)~28(木)まで開設し、197 件を受けました。連日 5 台の電話が鳴りっぱなしで反響が高く、連日マスコミの取材や政治家、NPO などから関心のある方々が見学に訪れました。受け手ボランティアは首都圏を中心に仙台等周辺県からもお集まりいただき、研修会を経て本当にドキドキしながらも、一生懸命かけ手に向き合い、その姿や会場の雰囲気は今でも鮮明に覚えています。

ママパラインが生まれた背景は、当時まだ「子育て支援」という言葉がなく、しかし虐待や子育ての困難さが全国各地で噴出し始めていました。1999 年に、チャイルドラインが創設され、子どもの声の向こう側に親や家庭の問題が垣間見られ、親や養育者・家庭の声を聴くことが必要だと、専門家からの後押しもあっての創設でした。その後、全国的にも市町村でも「子育て支援」という言葉が大合唱のように拡がり、親子の居場所づくりや乳幼児をメインにした子育て支援策が全国どの市町村でも充実し、今では子育て支援施策は各市町村行政が中心で担っています。

創設後、意志ある都県組織により、毎年全国キャンペーンが開設され、未だ認知を得ていない中、手探りで広報周知でしたが、毎年かなりの件数がかかってきていました。2006 年には千葉で常設化がされ、2007 年以降、仙台 東京 和歌山が、2009 年に名古屋と北海道で、2012 年兵庫が常設化しました。2008 年には、子ども NPO・子ども劇場全国センターが、「ママパライン」の商標登録も取得しました。

特に印象に残り忘れられない歴史の 1 つは、2011 年の東日本大震災後、被災を受けた福島県と岩手県で新しくママパラインを創設したこと

です。(※ママパラインいわては 2016 年閉会) 旧知の人を手繰り、会津や岩手の方々とお会いし、「かけ手の気持ちに共感し受け止める・傾聴すること」について話し込み、意見交換をしました。被災を受けた県であり当事者でもあり複雑だったことでしょうか、やや強引気味な働きかけに、その理念に賛同して創設し、2012 年にはママパラインふくしまが常設化しました。開設の準備と創設には、千葉や東京、仙台から受け手ボランティアが足かけ 2 年に渡り、開設日の度に現地に出かけ、いっしょに傾聴しました。その絆の強さが、今でもママパラインの「根っ子」を支え、自立した全国の各ライン同士が、信頼に基づく連携を保っていることが特徴です。

その当時も今でも、ママパラインを社会化し、特に行政との連携や他団体とのネットワークを強化し、子育て課題を解決する一翼になることを目指しています。「傾聴していること・開設している」だけの自己満足に終えず、社会的な認知を得て、誇りの持てるラインにして、外に発信しながら内部をブラッシュアップすることに努力を続けています。

最近、ママパラインちばの研修会で、私が感動的に受け止めたことがあります。経験を積みれば積むほど受け手の方々が謙虚になり、聴くことへの深い学びをされている姿です。受け手ボランティアはママパラインの宝物です。万感を込めて、受け手の皆様に感謝のエールを贈りたいと思います。

